

或る自立林家の経営実態分析

九州大学農学部 青 木 尊 重
山 口 浩

1. 家族構成ならびに森林構成の現況

家族構成は表-1のとおりである。森林の現況および伐採・更新の計画は、表-2のとおりである。

水田その他については、表-3のとおりである。

2. 山林労働投入の月別実績

昭和50年度における自己山林への労働投入の月別実績は、表-4のとおりである。

3. 山林からの推定年収

昭和50年度における自己山林からの推定粗収入は、表-5のとおりである。

4. 本経営体の特徴

約50haの山林のうち、竹林を除いた44ha余について昭和20年から天然生広葉樹林を漸次スギ、ヒノキ、マツへ林種転換をはかり、ようやく昭和50年度から施業計画によって、若干の主伐を進めうる体制になった経営体である。

表-1 家族構成

	60才以上	59~35才	34~20才	19才以下	計
男子		1	1		2
女子	1	1	1	5	8
計	1	2	2	5	10

表-2 森林の現況および伐採更新計画

	現在の樹種別の面積	近い将来の樹種別の面積	現在の蓄積	50.4~55.3の5ヶ年間の植栽計画				
				主伐	間伐	再造	拡造	萌芽
スギ	13.65ha	15.00ha	(681) m ³ (111) 1,139 (97) (250) 1,342					
ヒノキ	8.85	10.50						
マツ	1.68	1.68						
クヌギ	2.97	8.00						
天然生広葉樹	16.14	9.27						
マダケ	3.19	3.19						
ホテイ	2.52	2.52						
クリ	1.16	—						
計	50.16	50.16	2,481	0.88haの 164m ³	3.43haの 60m ³	0.60ha	2.15ha	0.58ha
						3.33 ha		

表-3 水田・その他

	水田	畑	茶畑	牛
数量	0.35ha	0.30ha	0.05ha	1頭

表-4 山林労働投入の月別実績

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
人分	24.5	60.5	62.0	36.5	52.0	29.5	68.5	31.5	29.5	49.5	29.5	33.0	506.5

{ その他に、水田分として46日、製茶分として10日の計56日分の労働投入があった。
 またホテイテクの共有林(4ha)への筍採集に40日分の労働投入があった。

表-5 山林からの推定年収(昭和50年度)

筍	4,838kg × 60円 = 290,280円 ÷ 63.0日分 = 4,608円/日当
	280束 × 2,329円 = 652,000円 ÷ 16.0日分 = 40,750円/日当
竹材	(小計 942,280円 ÷ 79.0日分 = 11,928円/日当)
椎茸	232.1kg × 2,700円 = 626,670円 ÷ 113.5日分 = 5,521円/日当
製炭	30俵 × 1,200円 = 36,000円 ÷ 2.0日分 = 18,000円/日当
	製薪 200把 × 60円 = 12,000円 ÷ 10.0日分 = 1,200円/日当
	(小計 48,000円 ÷ 12.0日分 = 4,000円/日当)
パルプ材生産	25m ³ × 9,700円 = 242,500円 ÷ 43.5日分 = 5,575円/日当
間伐材生産	スギ 15m ³ × 28,000円
	ヒノキ 3m ³ × 40,000円 } = 540,000円 ÷ 36.0日分 = 15,000円/日当
育苗	クヌギ苗 2,000本 × 20円 = 40,000円
	スギ苗 9,000本 × 20円 = 180,000円
	ヒノキ苗 1,500本 × 25円 = 37,500円
	} 計 257,000円 ÷ 33.5日分 = 7,687円/日当
合計	2,656,450円 ÷ 317.5日分 = 8,367円/日当
育林	189.0日分

※① 仔牛 1頭
 水田(0.35ha)に46日分 } 56日分
 製茶 に10日分 }
 ※② ホテイテク共有林(4ha)からの筍採集 4,000kgあり。
 これから 4,000kg × 60円 = 240,000円の収入あり。ただし入林権利金40,000円
 を支出しているので、手取りは 200,000円となる。 所要労働日数は40日間。

従前は製炭を基軸とし、竹材・椎茸を収入の支えとしていたが、近來は竹材・筍・椎茸・間伐材・パルプ材・薪炭・苗木の生産を複合的に組合せている。

- 1) 筍の採集は少々雨天でも可能な作業であり、連年収入であり、巧みな伐竹は竹林の整備となり、軽作業につき女子にも可能な作業につき魅力がある。
- 2) 椎茸栽培には、ある程度の技術の修得が要求され、かつ製品価格の変動が烈しく、資材費も高騰してい

るので、生産性が割合に低いのが悩みの種子である。

- 3) 日頃の丁寧な保育作業の蓄積と搬出技術の組合せによって、間伐材の生産は作業工程・販売価格ともに有利に展開している。今後は、優良柱材生産を目指して、枝打作業に努力配分を傾斜するという。
- 4) 当家の山林は、一団地に集中しており、自力開発した林道を活用しつつ、簡単な測量・測樹・集運材技術の体得により、一貫生産の有利性を志している。